

※令和7年3月23日時点

※本資料では主に令和6年度進展した取組を中心に掲載

1. 中部山岳国立公園と乗鞍高原

中部山岳国立公園は、北アルプス一帯を占める日本を代表する山岳の国立公園。
令和6年12月4日に指定90周年を迎えた。

乗鞍高原は、公園南部に位置する標高3,026mの剣ヶ峰を主峰とする乗鞍岳の東麓（標高1,200～1,800m）に広がる高原地帯

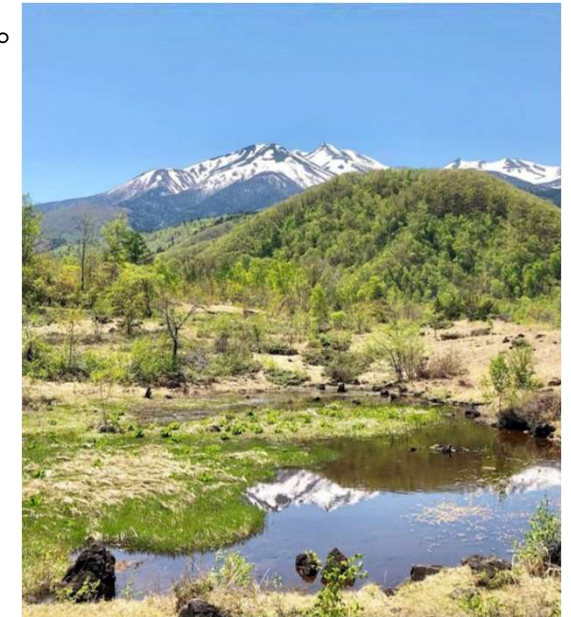
令和3年3月22日、地域関係者協働により**地域づくりビジョンである「のりくら高原ミライズ」*を策定。**

ゼロカーボンの推進を重要取組事項として定め、その将来性などが認められたことから、令和3年3月23日に日本初のゼロカーボンパークに登録。

*併せてのりくら高原ミライズ構想協議会を設置し、取組事項について進捗管理を行う



のりくら高原ミライズ表紙



一の瀬から望む乗鞍岳

令和4年4月26日には「のりくら高原『ゼロカーボンパーク』の具現化」として**脱炭素先行地域**にも選定され、多様な取組が地域一体となって実施されている状況。

2.脱炭素の取組の実践

・一の瀬エリアの再整備

乗鞍高原らしい魅力を伝える滞在施設として、環境省直轄整備事業で展望デッキを整備した。県産材のカラマツを活用したデッキ上からは、一の瀬の草原景観と乗鞍岳の眺望を楽しむことができる。地元ののりくら観光協会、大野川区により既存休憩施設の改修を行い、カフェとしてリニューアルオープンし地元の食材を使った伝統食等を提供。



一の瀬展望デッキ

・脱炭素設備導入のための補助事業の実施

松本市による「**乗鞍地域温暖化対策設備設置補助事業**」として、乗鞍高原地域の一般家庭や宿泊業者の電力消費に伴う二酸化炭素の排出量実質ゼロを実現するため、再エネ、省エネ設備の導入等について、国の交付金を活用し、対象経費の2/3補助を実施。

効果的・効率的な設備導入につなげるため、地域住民向けの全体説明会に加え、地域内の20軒の家庭・施設において、専門家が現地調査を行い、設備導入に向けた助言を実施。

導入設備		R4	R5	R6	累計
太陽光発電設備	一般家庭				0
	宿泊施設等	2	2	2	6
蓄電池	一般家庭				0
	宿泊施設等		1	2	3
熱利用設備 (薪ストーブ、太陽熱、その他)	一般家庭	2	3	1	6
	宿泊施設等	4	5	4	13
既存住宅断熱改修	一般家庭		1		1
	宿泊施設等				0
高効率空調機器	一般家庭			5	5
	宿泊施設等	2	4	18	24
高効率照明機器	一般家庭				0
	宿泊施設等			2	2
高効率給湯器	一般家庭		2	13	15
	宿泊施設等	2	5	7	14
合計		12	23	54	89

・松本市乗鞍観光センター一周辺再整備事業

松本市では、案内及び交通等の観光拠点である松本市乗鞍観光センターの周平整備事業を進めてきた。令和6年度については、乗鞍の地元住民と共に基本設計を実施し、ZEB化、太陽光発電設備及びEV充電器等の乗鞍地域の脱炭素化を率先的に進める要素も盛り込んだ整備内容とした。

2.脱炭素の取組の実践

・木の駅プロジェクト

のりくら高原ミライズ構想協議会のゼロカーボン分科会で行う「木の駅プロジェクト」として、前年度に伐採した伐採木を丸太、薪に加工して販売した。今年度は地域内の3箇所（旧銀山荘周辺、サイクリングロード周辺2箇所）で修景伐採を行い、来年度以降に燃料としての供給をめざす。



園路周辺の支障木など



「木の駅」事業として各家庭・宿の燃料等として供給をめざす

3.地域の脱炭素化に向けた議論

脱炭素先行地域の目標「**ゼロカーボンパークの具現化**」の達成に向け、以下（全体の一部）の取組を実施。

- 令和4年9月より（一社）松本市アルプス山岳郷が松本市から委託を受け、「**乗鞍ゼロラボ**（乗鞍高原においてゼロカーボンを学び、実験と実践を共有するコミュニティ型ラボ）」を開催。令和6年度は伝統食の栽培やトレイル整備等の6つのプロジェクトにおいて域内外より意欲ある参加者が集い活動を実施。また、ネイチャーポジティブに関する勉強会や「ゼロカーボンフェス」などのイベントを開催した。



ネイチャーポジティブに関する勉強会の様子

- 地域裨益型の小水力発電施設の整備に向けて、地域住民が参画するプロジェクトチーム会議を計5回開催し、事業性の確認及び合同会社の体制構築に向けた検討などを行った。事業性の確認及び設計施工業者の選定等に時間を要していることから、詳細設計の着手に至っていない。

4. その他乗鞍高原での取組

- トレイル整備

乗鞍高原の美しい自然を、ハイキングやMTBで体験できる「[NORIKURA KOGEN TRAILS](#)」では、トレイル整備のための協力金の仕組みも継続して実施。令和6年度には「のりくらトレイルDAY」や「JWNフォトツアー」、「NCMTトレイル整備イベント」等のトレイルの魅力発信に向けたイベントを開催した。

また、地域内のトレイルの実踏調査を行い現状を確認したうえで、優先度の高い5箇所において近自然工法（自然の仕組みに着目し、植生回復を行う整備理念）の考え方で修繕を行った。



トレイルの入り口：トレイルヘッド

- 外来種対策

乗鞍高原に入り込んでしまった外来種（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ、フランスギク等）の除去活動を実施。令和6年度は、のりくら高原ミライズ外来種対策チームによる駆除イベント（計3回）の開催および、地区ごとの駆除会（計8回）等を開催。

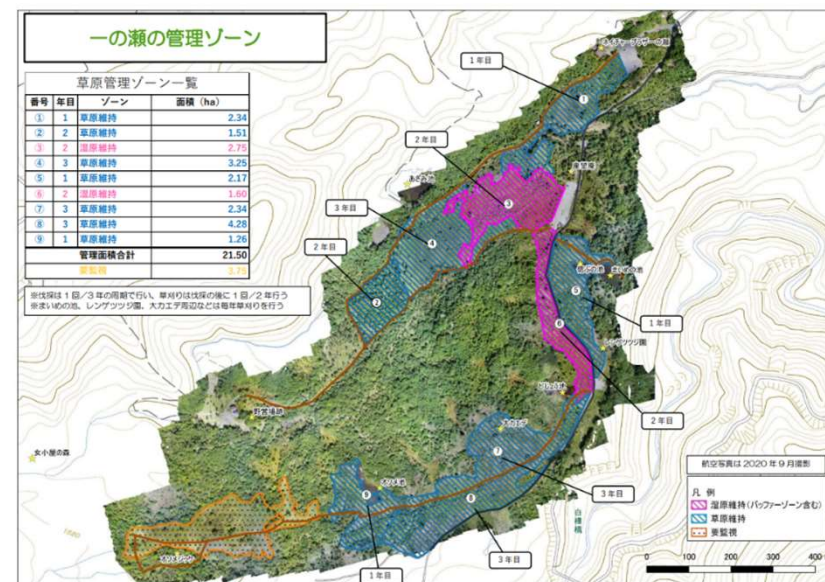


中平・宮ノ原駆除会 2024.6.4

地区ごとの駆除会の様子

- 一の瀬の草原再生整備

かつて放牧が行われ草原が広がっていた一の瀬エリアにおいて、令和3年に策定した「草原再生の手引き」を指針として、環境省、松本市及び地元町会により、令和3年度からシラカバの幼木等の伐採や刈払いを継続して実施している。令和6年度は過去3年の取組を踏まえてゾーニング計画を一部修正し、草原再生整備を行った。また、一の瀬に生息する草原性の希少昆虫の保全に向けて、通常の草原再生作業に加えて希少昆虫やその食草の生息、分布調査を行い基礎情報の収集を行った。



令和6～8年度の一の瀬園地刈払いのゾーニング計画（R3策定「草原再生の手引き」から一部修正）